

# 兵庫県 の ツノカメムシ

高橋 寿郎

ツノカメムシ類 (Acanthosomatidae) は大変美しい種が多いので注意して採集しているがなかなか集まらない種が多くある。充分ではないが現時点で県下にどの位の種が分布しているかここにまとめて見た。

同定に就いては出来るだけ慎重にしたが尚浅学未熟のため誤りがあるやも知れない御教示、御叱正頂ければ幸である。

## Family Acanthosomatidae ツノカメムシ科

### 1. *Acanthosoma denticauda* Jakovlev セアカツノカメムシ

本種は *Acanthosoma* 属の中では一番多くいる種であり平地から山間部にかけて生息している。一般にミズキ、サクラ、ヒノキ、ツタウルシ、スギなどの実より吸汁するほかヌルデ、ニガキの枝に多数つくことがあると云われている。時には気流に乗って多数の個体が山頂に集ることがあるとの報告もある(宮本、1965)。

本種の卵、幼虫の各令期の図説は小林氏の報文があり、食草としてミズキ、ツタウルシ、ヤマウルシ、ヤシヤブシ、アセビ、アカシデを記録しておられる(1958, 1959)。

兵庫県下でも次に記す様に広く分布している(筆者採集、標本所有のものにはデータをつけた)。

中西氏は六甲山でヤシヤブシの実に集る少数の幼虫を採集、さらにアセビの実に多数寄生しているとの報告をしておられる(1953)。

産地：三原郡論鶴羽山〔友国、1974〕。神戸市六甲山〔中西、後藤、1953〕(1♂, 15-VII-1956), 烏原(1♀, 23-V-1979, 1♀, 15-VI-1980, 1♀, 22-V-1981, 1♀, 6-VI-1981), 有馬(1♂, 2-X-1980)。明石市明石公園(1♂, 15-VI-1975, 1♀, 21-VI-1975)。神崎郡大河内町川上(1♀, 18-VI-1977, 1♀, 3-VI-1977)。相生市三濃山(1♀, 6-V-1973)。多紀郡篠山(1♀, 17-IV-1976)。氷上郡〔山本、1954, 1958〕。城崎郡蘇武岳, 三川山〔高橋, 1975〕。美方郡扇ノ山〔高橋, 1975〕。

### 2. *Acanthosoma expansum* Horvath エゾツノカメムシ

本種は県下では大変少いようで産地は次の2ヶ所しか知られていない。山地のミズキなどの潤葉樹上で見られる。

産地：宍粟郡波賀町音水（1♀，27-V-1979）。養父郡氷の山〔高橋，1975〕。

3. *Acanthosoma haemorrhoidale angulatum* Jakovlev ツノアカツノカメムシ

非常に珍しい種で内海功一氏が船越山で採集されている記録を知るのみである。データの3月採集のものは越冬中のものであったと。データの御教示を頂いた内海功一氏に厚く御礼申しあげる。

産地：佐用郡南光町船越山〔1♂，1♀，27-III-1979，1♀，20-X-1979，K. Utsumi leg.，内海，1980〕。

4. *Acanthosoma forficula* Jakovlev ヒメハサミツノカメムシ

本種も兵庫県下では少い種である。山地性でブナ帯に棲息し、ミズキ、クマノミズキ、ウコギ、ツタウルシ等の実を吸汁するといわれている。

産地：宍粟郡赤西（1♂，9-IX-1978）。養父郡氷の山々頂〔日浦，宮武，1979〕。美方郡扇ノ山〔黒田，1964.，高橋，1975〕。

5. *Acanthosoma labiduroides* Jackovlev ハサミツノカメムシ

雄は前胸背側角は美しい紅色で生殖節の鉤状突起は赤色で長く左右のものはほぼ平行して後方に向い見事である。

山地のミズキなどの潤葉樹上に生活するが気流に乗って山頂に集ることがあるとのこと。ヤマウルシ，ツタウルシ，ミズキなどの実より吸汁し，7～8月に産卵し，9月より新成虫があらはれ関東地方では山地の実のなっているミズキに5～11月まで見られるそうである（立川，1975）。卵及び幼虫各令期の図説は小林氏の貴重な報文がある（1959）。氏によれば四国ではこの種は1年1世代で卵は6月中旬から7月下旬迄見られ、新成虫は7月下旬から9月中旬迄見られ越冬は成虫態であると。

兵庫県下では比較的全般に分布しているように思われる。

産地：津名郡常隆寺山〔堀田，1975〕。川西市笹部〔仲田，1978〕。川辺郡猪名川町内馬場〔仲田，1978〕。神戸市烏原（1♂，9-V-1981）。明石市明石公園（1♀，15-VI-1978）。多可郡三谷（1♀，24-V-1975）。相生市三濃山（1♂，3-V-1969，1♂，18-V-1974）。宍粟郡音水（1♂，21-V-1972），赤西（2♂♂，27-V-1979，2♀♀，3-VI-1979），坂ノ谷（1♀，22-VII-1979）。氷上郡〔山

本, 1954, 1958]。養父郡氷ノ山(1♀, 22-VII-1956)。美方郡扇ノ山〔高橋, 1975〕。

#### 6. *Sastragala esakii* Hasegawa エサキモンキツノカメムシ

従来モンキツノカメムシに2型あるということは故江崎博士が早く指摘しておられた(1916, 1950)。長谷川 仁氏は1959年に新にマルモンツノカメムシと区別して本種を命名された。

ミズキ, ハゼノキ, コシアブラ, カラスザンショウ, サンショウなどの樹上にすむ。♀は6月中旬ごろよりミズキの葉裏に70~80個の卵を生みつける。その卵塊上に静止して保護をすると云うのは多くの文献で紹介されているが筆者自身は野外でその有様を実検したことは無い。卵を保護する習性のあるカメムシは小林氏によって7種報告されている(1959)。卵と幼虫各令期の図説は小林氏の立派な報文がある(1959)。氏によると本種の世代はまだよくわからないが交尾とか産卵は5月末から8月中旬に見られ、新成虫は7月初めから9月中旬頃まで出現し越冬は成虫態であると。また本種の生態主として卵を守る習性の詳しい報告は長谷川 仁氏のものがある(1959)。

本種は兵庫県下では極めて普通に見出される。鳥原ではハゼノキ、コシアブラを網ですくうと多数入ってくる。内海氏はキハダの未熟な実に来ることを記録しておられる(1980)。

産地: 川辺郡猪名川町槻並(1♂, 4-V-1979)。川西市笹部〔仲田, 1978〕。神戸市六甲山〔長谷川, 1959〕, 鳥原(1♀, 4-XI-1974, 7♂♀, 11~25-V-1975, 1♀, 10-X-1975, 16♂♀, 1~29-V-1977, 95♂♀, 5~26-V-1979, 2♂♀, 1-VI-1979, 5♂♀, 22~29-V-1980, 1♂, 2♀♀, 25-V-1981, 1♂, 1♀, 26-V-1981, 1♂, 27-V-1981), 藍那(1♂, 10-VI-1978)。神崎郡大河内町川上(1♂, 14-V-1977)。朝来郡須留ヶ峯(1♂, M.Yuma leg., 9-VII-1975)。相生市三濃山(1♂, 6-V-1973, 1♂, 28-IV-1974)。宍粟郡原(5♂♀, 11-V-1979), 赤西(1♀, 27-V-1979), 音水(1♀, 20-VII-1959, 1♀, 6-V-1973, 2♀♀, 3-VI-1973, 1♀, 21-V-1979), 坂ノ谷(3♂♀, 22-VII-1979)。城崎郡三川山〔高橋, 1975〕。養父郡氷ノ山(1♀, 20-VII-1956)。

#### 7. *Sastragala scutellata* Scott マルモンツノカメムシ

G. Lewisの採集品に基いてDistantはHiogoを記録している。これが真のこの種であるのか前記のエサキモンキツノカメムシの事であるのかははっきりしない。長谷川氏が大英博物館に保管されている標本を江崎、朝比奈両博士に調べてもらったが両者がまじっていたと記しておられる。たゞ

し基本標本はマルモンツノカメムシであったと(1959)(Scottは1874年の原記載は、G.Lewis が日本で採集したものであると書いてあっても産地に就いて何一つ書いてない。原記載の標本がHiogo産の可能性はあるわけである)。筆者は相当調べているのであるが前種はいくらでもいるが本種は残念ながら全く採集出来ないういた。1981年になって鳥原で叩き網で1♀を採集出来た。さらに同年5月16日拙宅を訪問された神大の池田隆直氏が神大農学部西北の地点(灘区篠原)で3 exs.を採集他にもいたことを御教示頂いた。これでやはり個体数は少いが神戸市内にすることがわかった。たゞ今迄これだけ調べていたのに全く見られなかったのは調査が不充分だったのか不思議であるし、今年は多く発生したのかもしれない。それとエサキモンキツノカメムシより若干早い時期の様にも思われる。これらのことからもっと調査すれば県下の産地も増えることと思われる(その後池田氏は6月にも同じ所で採集された由)。

県下の記録は次の如くあるがどれもが真の本種のことであるかどうかは良くわからない。ミズキ、ヒサカキなどの樹上で生活していると云われている。最近日浦 勇氏は全国的に本種とエサキモンキツノカメムシの分布を述べておられる(1980)。それによると本種は全般に個体数が前種より少なくまた分布も関東地方にはほとんど分布していないようである(埼玉県の記録がある)。垂直分布は鳥原で両者を産している、川西市あたりでも両者を産しているので特徴を見出すことは出来ないがエサキモンキツノカメムシの方が圧倒的に多くいることははっきりしている。

産地：川西市笹部〔仲田, 1978〕。Hiogo〔Distant, 1883〕。神戸市灘区篠原〔3 exs., V-1981, T. Ikeda leg.〕, 鳥原(1♀, 13-V-1981)。氷上郡〔山本, 1954, 1958〕。美方郡扇ノ山〔黒田, 1964〕。

#### 8. *Anaxandra gigantea* Matsumura オオツノカメムシ

古く一柳氏が西宮市夙川の川端のススキをスーイピングして1♂を採集(1934年9月), さらに山路俊一氏は東灘区の魚崎の浜で採集(1936年10月31日)の記録があり共に和名だけであるがこの様に大形の種であるから同定は出来ていると思われる。

最近本種の日本に於ける分布を日浦 勇氏がまとめられた(1980)。それによると須磨一の谷産の標本が大阪市立自然史博物館収蔵標本の中に含まれていることが報告されている。筆者は残念ながら県下で採集したことがない。日浦氏がのべておられる様に本種は暖帯型の分布をしており大阪市内のような所でも発見されているからもっと良く調べれば県下での産地も見つかると思われる。食草はケンボナシ、ホルトノキ、ミズキ等があげられている。

産地：西宮市夙川畔〔一柳, 1937〕。神戸市東灘・魚崎浜〔山路, 1937〕, 須磨・一ノ谷〔日浦, 1980〕。

9. *Elasmostethus doralis* Jackovlev. アカヒメツノカメムシ

体は赤色がかった黄緑色の地に黒点の点刻が散らばっている小形のカメムシである。県下での産は大変少いようである。

産地：養父郡氷の山(lex., 27-VII-1956)。美方郡扇の山〔高橋, 1976〕。

10. *Elasmostethus humeralis* Jackovlev ベニモンカメムシ

青味を帯びた緑色で、赤褐色の腹背部が半翅鞘を通して見える。山地でハナウドなどセリ科植物の花穂上に多くいる。タラ、ウコギ、ヤシヤブシにも寄生すると。

六甲山で中西氏はヤシヤブシより幼虫を採集して実を与えて飼育に成功した報告がある(1958)。県下に広く分布している種である。

産地：川西市笹部〔仲田, 1978〕。神戸市六甲山〔中西, 後藤, 1953〕, 鳥原(lex., 1-VI-1969, 2exs., 14-V-1971, lex., 20-V-1972, lex., 25-V-1972, 2exs., 18-V-1975), 山の街(lex., 9-XI-1963)。多可郡三谷(3exs., 8-VI-1975, 4exs., 26-VIII-1975), 鳥羽(lex., 5-VII-1975)。神崎郡大河内町川上(lex., 6-VIII-1977, 3exs., 3-IX-1977)。相生市三濃山(lex., 3-V-1969, lex., 6-V-1973)。宍粟郡音水(lex., 21-V-1972, lex., 11-VI-1972)。美方郡扇ノ山〔高橋, 1976〕。

11. *Elasmucha putoni* Scott ヒメツノカメムシ

山地に住み、成虫で越冬し5月より活動を始め6月上旬よりヤマグワなどの葉裏に産卵し、雌はその卵上に静止を続けて2令幼虫になるまで保護する習性があると(この保護に関しての記録は次のようなものがある。奥谷, 1949, 後藤, 1953, 小林, 1954)。新成虫は7月中、下旬にあらわれる。ヤシヤブシ、ノリウツギ、ヒノキの果実などからも吸食すると云われている。

本種の幼虫各令期、卵の図説は小林氏のものがある(1954)。中西氏は六甲山でヤシヤブシ、ヒメヤシヤブシに多産するとされたヒメツノカメムシは学名が *E. scotti* Reuter となっているが本種のことであろうと思われる。

本種は古くKobeからG. Lewis の採集品に基いてDistantが記録している。

県下に広く分布している種である。

産地：Kobe〔Distant, 1883〕, 神戸市六甲山〔中西, 後藤, 1953〕(lex., 15-VII-1956), 谷上(lex., 3-V-1957)。多可郡白山(lex., 3-V-1973), 三谷(3exs., 24-V-1975, lex., 8-VI-1975), 鳥羽(lex., 1-VI-

1975)。神崎郡大河内町川上(lex., 7-V-1977, lex., 14-V-1977, 2 exs., 4-VI-1977, lex., 15-VI-1977, 2 exs., 3-IX-1977)。宍粟郡波賀町原(lex., 11-V-1979), 赤西(4 exs., 27-V-1979), 音水(lex., 3-VI-1973, lex., 11-VIII-1978, lex., 21-V-1979), 坂ノ谷(3 exs., 22-VII-1979)。氷上郡〔山本, 1954, 1958〕。養父郡氷の山〔高橋, 1975〕。

12. *Elasmucha signoreti* Scott セグロヒメツノカメムシ

黄褐色あるいは褐色で黒色の点刻を散布する。前胸背側角は黒色で顕著に突出した先端は光って後側方に向う。

山地のノリウツギの花の上やアセビの果実で多く見られ、♀はウツギ、スグリ類、ヤマグルマに産卵する種であるが兵庫県下では割合少い。

本種の生態に就いては小林氏の報文がある(1954)。全氏によると年1世代で6、7月頃出現し7月中旬～8月中旬に亘って交尾産卵し、9月下旬～10月上旬に越冬に入るものと考えられている。本種も卵を保護することが報告されている(後藤, 1953, 小林, 1954)。

産地：神崎郡大河内町川上(lex., 23-VII-1977)。宍粟郡坂ノ谷(4 exs., 9-VI-1973, lex., 22-VII-1979)。養父郡氷の山(lex., 27-VII-1956, 2 exs., 15-IX-1973, K. Tsuji leg.)。美方郡扇の山〔高橋, 1975〕。

13. *Dichobothrium nubilum* Dallas アオモンツノカメムシ

ベニモンカメムシに似るがより小形で体上の緑色部が広い。またはねの中央部に濃色の小点がある。4月ごろよりヤツデ、キツタなどのウコギ科の花、実集る。4月下旬から寄生植物の葉裏に20個近くの卵を産み、6月に新成虫があらわれる。夏はあまり活発に行動せず10月ごろ樹皮下などに入り越冬状態になる。平地から山地まで普通に見られる種である。

三橋信治氏は古く *Elasmostethus scotti* Reuter アオモンツノカメムシとして兵庫を掲げておられる(1915), この種に就いて石原 保博士の説明がある(1947)。本種と同一種と思われる。

産地：洲本市先山、安乎町〔友国, 1973, 堀田, 1975〕。川西市笹部〔仲田, 1978〕。兵庫〔三橋, 1915〕。神戸市谷上(lex., 3-V-1957), 鳥原(lex., 18-V-1975, 4 exs., 25-V-1975, lex., 22-V-1977, 4 exs., 3-V-1979, 3 exs., 5-V-1979, lex., 25-V-1979, lex., 1-VI-1979, lex.,

31-V-1981), 山の街(3exs., 29-V-1976)。宍粟郡坂の谷(1ex., 22-V-II-1979)。氷上郡〔山本, 1954, 1958〕。城崎郡三川山〔高橋, 1975〕。美方郡扇ノ山〔高橋, 1975〕。

以上兵庫県産のツノカメムシ13種の分布を報告した。始めに記した様に個体数の少い種もありまだまだ調査が不充分だとは思われるのでより一層の努力をしたいと考えている。

## 参 考 文 献

兵庫県関係のものは既に本誌上に発表(2巻, 2号。3巻, 1号。4巻, 1/2号。5巻, 1/2号)したもの以外を掲げた。

1. J. Scott, 1874. Ann. Mag. Nat. Hist., Ser. 4, Vol. XIV:426-452.
2. Distant, W. L., 1883. Trans. Ent. Soc. London, 1883:413-443.
3. 江崎悌三, 1915. 昆虫世界, 19(211):95-100, pl. 6., 19(215):277-279.
4. 石原 保, 1941. 昆虫界, IX(85):143-146, pl. 8.
5. 石原 保, 1941. 虫・自然, No. 17:55-69
6. 奥谷禎一, 1949. 新昆虫, II(4):39.
7. 江崎悌三, 1950. 日本昆虫図鑑(北隆館)。
8. 小林 尚, 1954. 新昆虫, VII(11):21-23.
9. 小林 尚, 1954. 四国昆虫学会々報, IV(4):63-68.
10. 小林 尚, 1958. 四国昆虫学会々報, V(8):121-132.
11. 小林 尚, 1959. 四国昆虫学会々報, VI(3):37-47.
12. 長谷川 仁, 1959. 日本昆虫記, VI:39-72(講談社)。
13. 長谷川 仁, 1960. 長岡市立科学博物館研究報告, No. 1:19-65.
14. 宮本正一, 1965. 原色 昆虫大図鑑, 第3巻(北隆館)。
15. 川沢哲夫, 川村 満, 1975. 原色図鑑カメムシ百種。全国農村教育協会。
16. 高橋 匡, 1976. 豊岡高等学校昆虫標本目録(第4報)。
17. 日浦 勇, 1977. 原色 日本昆虫図鑑(下巻)(全改訂新版, 保育社)。
18. 仲田元亮, 1978. 能勢の昆虫, I.
19. 宮武頼夫, 日浦 勇, 1979. Nature Study, 25(10):118.

20. 日浦 勇, 1980. *Rostria*, (32):331-333.

21. 日浦 勇, 1980. *Rostria*, (33):354-358.

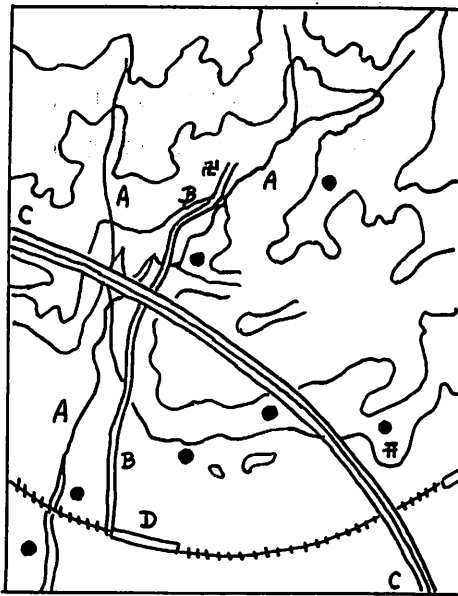
22. 内海功一, 1980. てんとうむし, (6):31.

(15-VII-1981)

## 宝塚市清荒神のチョウ

加藤 信 一 郎

このたび高橋寿郎氏のご厚意により、宝塚市清荒神に生息する蝶について報告することになった。報告に先立って心からお礼申しあげる。



清荒神付近概念図

- 調査地点
- ㊦ 清荒神
- ㊦ めふ神社
- A 荒神川
- B 参道
- C 中国自動車道
- D 阪急清荒神駅

清荒神周辺の地理的環境は、西は南北に流れる武庫川を隔てて六甲山系に、北は東西に延びる低山地長尾山系にそれぞれ接する丘陵地と、それから東南に広がる平野部からなる自然環境は、阪神二大都市のベットタウンとして近年とみに開発が進んだが、なお雑木林や田畑がまばらに点在すると共に、

始めて清荒神にすむようになったのは1949年(昭和24年)からで、通算すると約32年になる。その間、最初の8年間は阪急宝塚線清荒神駅の少し南側にいたが、その後線路を越えて参道の途中から東に入った現住所に移って今日に至っている。

記憶とは実にあやふやなもので、かなり古くから集めていたとばかり思い込んでいたが、いざ実際に当たって見たところ、ほぼ継続的に観察・採集を始めたのは漸く、1970年に入ってからで、それ以前の採品はきわめて少ない。それも後々の記録に残しておこうといった計画性など更になく、ただそのころ、久しく休眠していた蝶熱がまた突然再燃して、今日まで細ぼそと続いてきたような次第である。従って誠に貧弱な記録ではあるが、丁度周辺の宅地・道路など開発が本格的に始まりかけた時期と合致するので、その中から、開発の進展と蝶生息の変遷との係わり、ならびに生息する種の消長と特徴などを多少ともべつ見できるのではないかと思う。